（ 様式D－２ ）
（ 別　　紙 ）

令和７年度　海外派遣研究員研究報告書〔研究実績〕

令和 7 年 10 月 24 日

日本大学理事長　　殿
日 本 大 学 学 長　　殿

所　　属　　芸 術 学 部（芸術研究所）
資格・氏名　　教授　中 野　成 樹

令和７年度海外派遣研究員（中期）の研究実績を，下記のとおり報告いたします。

記

１　区　　分　　中期

２　研 究 課 題

東南アジアにおける小劇場演劇に関する研究

３　派 遣 期 間　　西暦 2025 年 4 月 2 日　～　2025 年 9 月 1 日

４　派　遣　先　　タイ王国、〇ベトナム社会主義共和国、マレーシア

５　研 究 目 的

本研究は、「東南アジアにおける小劇場演劇」を定義することを目的とする。東南アジア３カ国で、舞台芸術の上演を実地調査し、必要に応じ日本のそれらと比較し、研究報告をまとめる。実地調査の国・都市はタイ・バンコク、ベトナム・ホーチミン、マレーシア・クアラルンプールの３カ所とする。それぞれ、ヨーロッパ諸国による植民地統治を逃れた国、フランスによる植民地統治が行われた国、イギリスによる植民地統治が行われた国である。歴史的条件は異なるが、現在、それらの国・都市では独自の小さな演劇、商業的な大資本を基にしないものがどのように展開されているのか調査する。欧米との比較をするならば、イギリス・ロンドン、ウエストエンドにおけるフリンジから大劇場への道筋やアメリカ・ニューヨーク、ブロードウェイにおける、オフオフ・ブロードウェイからオフ・ブロードウェイ、ブロードウェイへとつなげることを成功とする過程に支配されていない、国の歴史と同様の、大きなものからの独立を保った・果たした、小さいが確かな文化と誇りに支えられた舞台芸術が存在するのか。そこに小劇場という言葉と精神性を掬い取り、映し、これからの舞台芸術が持てるであろう可能性を調べる。

準備として、これまでの日本における小劇場演劇の歴史を踏まえ、現状、小劇場演劇を以下三つに定義しておく。①公的機関・資金の介入の有無に関わらず、企画者・創作者から自発的、自主的に提案される芸術プログラムであること。 ②興行における金銭的利潤を最終目的にしていないこと。 ③政治的、宗教的、思想的なプロパガンダ

に支配されていないこと。実地調査においては、これらとの対比を研究の始まりとし、目的へ進んでいく。

６　研 究 概 要

① 研究の方法

現地で舞台芸術（音楽や美術のライブパフォーマンス含む）を観劇し、その上演記録を取る。その際には、舞台芸術の種類を大きく三つに仮区分けする。A.商業 B.伝統 C.小劇場 である。「商業」は大手資本で利潤確保、「伝統」は各国の伝統芸能に加え、観光資材としてイベントも含む。「小劇場」はむしろ、その他の認識とする。記録に際し、本研究の主となる「小劇場」に係っては、先述した小劇場の定義との対比に加え、a.物語の主題、b.演出の手法、c.演技の体系、d.テクニカルスタッフの現状、e.伝統の消化、の項目を並べ検証をする。

② 渡航先での活動内容

以下の施設を訪れ、そこでの公演、上演、上映、展示、ライブパフォーマンスを鑑賞した。マレーシアではアート・ワークショップに参加した。また、必要に応じて関係者にインタビューを実施した。

タイ王国・バンコク

- Bangkok Art and Culture Center (BACC)　現代美術展示
- Asiatique The Riverfront　古典舞踊、キャバレーショー
- Thailand Culture Center (TCC)　音楽公演、インタビュー
- Rajamangala National Stadium　音楽フェスティバル
- Jim Thompson Art Center　現代美術展示
- GalileOasis　インディーズ映画上映
- People of Ari　現代演劇公演(小劇場)
- River City Bangkok　現代演劇公演(小劇場)
- Studio Lam　音楽ライブパフォーマンス
- City City Gallery　現代美術展示
- Blue Print Livehouse　音楽ライブパフォーマンス
- 国際交流基金バンコク　インタビュー

ベトナム社会主義共和国・ホーチミン

- Nhà hát Thành phố Hồ Chí Minh （サイゴンオペラハウス）　コンテンポラリーサーカス、クラシック音楽
- 5B Võ Văn Tần　現代演劇公演(小劇場)
- Kịch Hồng Vân　現代演劇公演（小劇場）
- VNUHCM Student Cultural Center　ダンス公演
- Sân Khấu Nghệ Thuật Trương　児童演劇公演
- Nhà hát Bến Thành　現代演劇公演(小劇場)

・Sun Life P-lace　現代音楽公演
・Golden Dragon Water Puppet Theater　水上人形劇公演

マレーシア・クアラルンプール

・Kuala Lumpur Performing Arts Center　現代演劇公演(小劇場)
・ZEPP Kuala Lumpur　音楽ライブパフォーマンス
・VCR Café　朗読パフォーマンス
・National Stadium Bukit Jalil　音楽フェスティバル
・La La Port（屋上）　音楽ライブパフォーマンス
・Malaysia tourism Center　伝統舞踊公演
・Dewan Filharmonik Petronas　伝統舞踊公演、クラシック音楽
・GMBB ビルディング　現代アート展示、ワークショップ
・中山ビルディング　現代アート展示、ワークショップ
・FUSION WAYANG KULIT アトリエ　影絵芝居展示
・DBKL City Theatre　施設見学
・Istana Budaya　施設見学
・国際交流基金マレーシア　インタビュー

７　研究結果・成果

タイ王国・バンコク

A.商業：Asiatique The Riverfront は巨大な複合商業施設である。ショッピングモール、レストラン、マッサージ店、観覧車などのアミューズメント施設が300 店ほど集まっている。そこで毎夜開催されている演劇がある。『カリプソ・キャバレーショー』『サイアム・ファンタジー』である。キャバレーショーはいわゆるニューハーフショーで、歌あり踊りありモノマネあり寸劇ありの 60 分のパフォーマンス。サイアム・ファンタジーは最新の舞台機構を駆使し、伝統舞踊やムエタイなどタイの見どころを並べる 60 分のエンターティメント。どちらも観光客をメインターゲットに据え、旅先でのエキサイティングな経験の一つとしたい狙いが見える。客席数は両会場とも 200 席程度。

Rajamangala National Stadium で行われた『H2O』は巨大な音楽フェスティバルであった。タイの伝統的な行事であるソンクラーン（水掛け祭り）の期間中に開催される、主催者の宣伝では「世界一びしょ濡れになる音楽フェスティバル」。2015 年から継続されている（コロナ期間中は中止）。夕方から深夜にかけての長時間、音楽のパフォーマンス中に絶えず放水機から大量の水が放出される。観客たちは嬌声をあげながらずぶ濡れを楽しんでいた。2 万人規模の会場は、現地の人々、旅行者が半々といったところ。伝統的なお祭りを完全に巨大エンターティメント化していた。チケットも早々に完売だったようで、今後も継続されるであろう。なお 2024 年からは同じコンセプトのフェスティバルが日本でも開催されている。

Ｂ.伝統：タイの伝統的な演劇は、国立劇場が改修工事のため閉館しているため、2025年は見ることが難しかった。しかし、商業的な古典舞踊ショーはバンコクの数カ所で行われていた。大抵の場合、レストラン付帯で食事をしながら楽しむ形式となっていた。国立劇場は2026年に再開の予定で、正統性を保った伝統劇はそこからリスタートとなりそうだ。
Ｃ.小劇場：バンコクには常設の小劇場（ホール）が存在しない。現地の方から、何度もそのような言葉を聞いた。現代美術を展示するギャラリーや会場で、年に数日間、いくつかの団体がパラパラと上演をするようだ。バンコクには、商業、伝統も含めて、いわゆる「劇場街」が存在しなかった。そのため、日本でいえば、商業演劇が集う日比谷や小劇場が連なる下北沢のように、出かけていけば何かしらの演劇に出会える場所はない。一方、そんなバンコクで、小劇場的なインディペンデントの意識を持つアーティストが期待をかけるのが演劇フェスティバルである。バンコクシアターフェスティバル、バンコク国際舞台芸術会議、など、そこをタイ国内でのメイン活動と据えている人・集団が多いようだ。滞在期間がフェスティバルと重ならなかったため、その調査は次回の課題とする。

そんなバンコクの小劇場であるが、フェスティバル以外の公演をいくつか見ることができた。People of Ari で行われていたのはHome Made Pupet『Beauty in the dark』 a.オリジナルなイメージを、b.影絵の手法で、c.ナチュラリズムを用い、d.強い音響効果とともに表現していた。e.影絵の使用は、タイの伝統的な影絵であるナンヤイやナンタルンの影響を無意識化に受けてはいるだろうが、取り立ててそれを強調することはなかった。劇団8×8は日本の小劇場との共作経験もある集団である。River City Bangkokで行われた『Enlightened War』は、a.演劇の上演をモチーフにしたオリジナルの物語を、b.素舞台で、c.リアリズム演技を用い、d.照明効果を使いながらの表現であった。e.そこにタイの伝統の面影はなく、すべてがモダンなパフォーマンスであった。俳優の発話が非常にクリアであった印象が残る。

最後にバンコクのインディペンドな音楽と美術について一言残しておく。バンコクにおいて、商業に擦り寄らない音楽と美術は大変に盛んであった。小さなギャラリーやライブハウスはどこも盛況で、あたらめて何故劇場がないのかを不思議に思った。

ベトナム社会主義共和国・ホーチミン

Ａ.商業：ホーチミン市の中心にあるNhà hát Thành phố Hồ Chí Minhはサイゴン・オペラハウスと呼ばれ、市民に親しまれ、観光名所ともなっている。そこで、オペラやクラシック音楽、バレエを差し置いてロングラン公演を行っているのがLUNE Productionによる『AOショー』である。カナダを拠点とするシルク・ド・ソレイユのベトナム版といえるだろうか、パフォーマーによる曲芸的な出し物が次から次へと目まぐるしく展開される。モチーフは、竹や籠といった伝統を感じさせるもの、街中で絶え間なく続く工事、水田と米、などベトナムの古今の風景を描く。客席は観光客が大半を占めるが、地元の人々も優れたエンターティメントを見物しようと訪れていた。ホーチミン観光の目玉になりうる出し物であった。キャスト・スタッフともベト

ナム人がその多くを占め、純国産による観光資産としての意味合いは、日本の伝統芸能にも共通点を見出せる。

Ｂ.伝統：Golden Dragon Water Puppet Theater では連日、水上人形劇が上演されている。本家はベトナム・ハノイにあるが、ホーチミン市でのそれも同じ流れをくむ座組・演目である。観光客がメインターゲットで、バスツアーにも組み込まれている。パンフレットは日本語も含め５-６言語用意されていた。一方、伝統舞踊や影絵などは街中やインターネット上に情報が少なく、長期の滞在を前提とした専門的な調査をしなくては触れづらい印象を持った。

Ｃ.小劇場：2024 年に第一回ホーチミン市演劇祭が開催された。約 20 箇所のステージで多数のパフォーマンスが行われたと聞いた。このように、ホーチミン市には小規模な劇場・スタジオ・アトリエが多く点在する。劇場街と呼べる地域はないが、情報をたぐれば毎週末どこかしらで小劇場の公演を観ることができる。

Nhà Hát Kịch Sân Khấu Nhỏ 『GHEN』は a.女性であることの非喜劇を、b.シンプルな舞台美術で、c.リアリズムとコメディタッチを合わせ、d.多数の効果音とともに表現していた。e.女性の自立とモダンなテーマで伝統的な要素はなかった。劇場の入口で軽食や飲み物を販売しており、観客は映画を観る感覚で楽しそうに観劇していた。

Kịch Hồng Vân『Người Vợ Ma』は a.幽霊にまつわる怪談話を、b.ホラーテイストで、c.リアリズム演技で、d.照明効果・音響効果を交え表現していた。e.現代的なエンターティメントで伝統的な要素はなかった。こちらも軽食や飲み物が販売されており、若いカップルも多数客席におり、声を出して積極的に観劇していた。Kich thieu nhi 『sknt truong hung minh』は a.童話的なおとぎ話を、b.子供も楽しめるように、c.シンプルで大きな演技で、d.多数の効果音とともに表現していた。e.登場人物が次々と鼻が腫れてしまう寓話的な物語はベトナムではよく知られた話のようだ。舞台進行の途中に客席の子供を舞台に乗せ「だるまさんが転んだ」を行うなど、観客へのサービスが行き届いていた。Nha hat kich IDECAF『nxnx36-hau due than mat troi』a.オリジナルなファンタジーを、b.誰もが驚き楽しめるように、c.ダンスを交えた大きな表現で、d.派手な視覚・聴覚効果をほどこし表現していた。e.衣装が伝統を基にした（日本でいえば着物をモチーフにした）煌びやかなものだった。こちらは劇場がやや大きく、またテレビなどに出演している俳優も多数いるようで、登場時に歓声が上がることも多々あった。

ホーチミン市の小劇場は市民のエンターティメントとして確立されているように見えた。そのためか、深刻なテーマや哲学的な対話はほぼなかった。一つの劇団が年間に何回も公演を行っており、経済的な自立は達成できているようだ。

マレーシア・クアラルンプール

Ａ.商業：マレーシアは経済の発展が著しく成長はまだしばらく続くと予想されている。実際、出会う現地の人々はどこか活気に満ちていた。一方、舞台芸術の分野においては、観光の目玉となるようなエンターティメントやショーに出会うことはできなかった。舞台に限らず、クアラルンプールは芸術・エンターティメントのライブ体験

施設が都市の発展に比べて少なく、タイの常設劇場なしと同じくなぜかと不思議に思う。もちろん、これからの発展・展開を期待したいが、何か根源的な理由があるように感じ、これからの課題としたい。

Ｂ.伝統：マレーシアツーリズムセンターでは、毎週・火水に伝統舞踊ショーを無料で観ることができる。クアラルンプールに限らず、マレーシア全土の各民族の舞踊を音楽・衣装とともに楽しめる。他にも同じようなコンセプトのレストランが数ヶ所存在した。一方で、A 商業にも関連するが、多民族国家ならではの悩みはあるようで、マレー系、華人系、インド系のどれかを強調すれば、どこかがへそを曲げ離れていくようで、なかなかマレーシアが完全にフュージョンされた表現は難しそうである。Dewan Filharmonik Petronas では伝統芸能オーケストラが公演を行っていた。客席は満杯で、観光客よりも地元の観客が多いようだった。

Ｃ.小劇場：滞在期間中、小劇場を観劇する会場としては Kuala Lumpur Performing Arts Center の一択であった。TUTAS conservatory bachelor of performing arts『Let me go』、Patuh atau derhaka『anak-anak malik』、Five Arts Center『fragments of TUAH』を観劇した。『Let me go』a.自分探しの物語をマレー語で、b.シンプルな舞台美術～最後は素舞台で、c.リアリズム演技で、d.必要に応じた効果と英語字幕で表現していた。e.伝統的な要素はなかった。『anak-anak malik』a.ロルカ『ベルナルド・アルバの家』をマレー語で、b.全員男性キャストで、c.リアリズム演技で、d.必要に応じた効果と英語字幕で表現していた。e.伝統的な要素はなかった。『fragments of TUAH』a.伝説上の存在 TUAH にまつわる調査をマレー語で、b.一人芝居で、c.ナチュラリズムで、d.資料を模した美術、映像、英語字幕とともに表現していた。e.伝統とは無縁の上演であった。

先に述べた多民族の問題であるが、小劇場ではやはり、マレー系、華人系、インド系のそれぞれにそれぞれの観客がやってくるようだ。越境しての観劇はほぼないとのことだった。

<u>３カ国を通して</u>

各国とも経済の発展や旅行者の数に比べて「劇場街のなさ」をまずは感じた。各国に駐在している日本人に話を聞くと、「劇場に集まる前に外で集まれちゃう」とのことだった。どの都市も年間を通して 32-33℃程度の気温なのであながち冗談ではないように感じる。どの国も伝統を尊重し、欧米に右へ倣えの姿勢ではなく、確固たるアジアを自覚しようと努力している様に感じた。

以　上